



海外の浄土真宗事情

第8回 オーストラリア開教の歴史

一大陸で一国を為すオーストラリアは、有史での歴史は二百年程ですが、白人が入植する前のアボリジニの歴史は数万年とも言われています。この大陸に、日本人が初めて移住したのは主に真珠採りのダイバー等で一八八〇年頃盛んに行われました。その後、白豪主義や、旧宗主国の英国が戦争の敵対国となる等の影響で、日本人移民が本格的に始まったのは、一九七五（昭和五十）年の人種差別禁止法成立後からと言われています。

日本は現在オーストラリアにとって良き貿易相手国であり、日本企業も多く拠点をシドニーに置いています。そうした企業の一つ現地法人トーメン（現・豊田通商）の当時社長だった大橋潔氏らが中心となり、一九九一（平成三）年に京都の本願寺にシドニーへの寺院誘致を申請したのが開教の始まりでした。

翌年四月には早速、宗派として開教に向けての調査が実施され、実現の方向に向かうこととなりました。同年十二月十八日にはオーストラリア政府より

「Hongwanji Buddhist Mission of Australia」として法人設立の許可を受け、一九九三（平成五）年一月二十日に宗派より「開教地」の指定を受けました。シドニー北部ニュートラルベイに開教事務所を設立、カナダ開教区開教総長だった村上利夫師が初代所長に就任し、同年四月十四日に、開教事務所の公式な開所式が市内ホテルにて催され、活動がスタートしました。

村上所長は就任後多方面で活動を展開、事務所での日曜礼拝や法事を基本に、ニューサウスウェールズ（NSW）州仏教連盟に於いて豪州人に対し仏教講座を担当、また夫人と共に茶道、書道の文化教室を事務所で行う他、一九四四（昭和十九）年の集団脱走事件で多くの日本人捕虜が亡くなったカウラでの式典で、本願寺として初めて墓地で追悼法要を行い、現在まで毎年継続されています。

一九九四（平成六）年十月十五日には、豪州人として初めてジョージ・ゲツ



情報コーナー



カウラ日本人戦没者墓地での追悼法要（2016年8月5日）

テンビー（アデレード在住）、ジョン・パラスケヴォポロス（キャンベラ在住）の二人が得度。その後ゲッテンビー師は自宅で日曜礼拝を行う他、ホームページで浄土真宗を紹介する活動を展開、二〇〇七（平成十九）年十二月十三日には教師資格も取得、二〇〇九（平成二十一）年

より南オーストラリア州仏教連盟の議長を務め、二〇一〇（平成二十二）年から二年間フリンダース大学にチャプレンとして勤めました。一方、パラスケヴォポロスは、政府機関に勤める傍ら、浄土真宗についてのホームページを作る他、国際真宗学会で論文を発表する等の活動を続けています。

村上所長の帰国後一九九五（平成七）年一月に、後任の第二代所長として稲本広正師が着任しました。日曜礼拝を継続し、ゲッテンビー、パラスケヴォポロス両師を順に開教事務所に招き、英語法話会が行われるようになりました。一九九六（平成八）年八月には、開教事務所がクローズネストに移転し、その後二〇〇〇（平成十二）年六月に稲本所長が離任しました。二〇〇〇（平成十二）年八月に、第三代所長として家族と共にカナダ開教区ブリティッシュコロ



ニュートラルベイの最初の開教事務所内での茶話会（1994年）

ンビア（BC）州のケローナ仏教会駐在だった私が着任しました。早速、日曜礼拝を再開するとともに、毎月の文書伝道として『シドニー本願寺報』を創刊（現在一八九号）。また各種法要、カウラ法要等の他、翌年までにロイヤルノースシヨア病院等のチャプレンとして登録され、仏教徒患者の見舞を続け、今年、病

海外の浄土真宗事情



東リンドフィールド小学校でのスク립チャークラス

院ボランティア十五年の表彰を受けました。一方で、NSW州仏教連盟との関係を強化し南伝仏教系寺院への式典にも参加。仏教の横の繋がり（つな）を広げた他、カトリック、合同教会等を窓口（まがき）に他宗教との繋がりも広げ、超宗教の式典に参加しています。また、公立校で仏教の授業を担

当し、二〇〇一（平成十三）年に北シドニー男子高校で教えたのを皮切りに、北シドニー女子高校、そして二〇〇七（平成十九）年より東リンドフィールド小学校に移り現在に至っています。

開教事務所は二〇〇二（平成十四）年八月リンドフィールドに移転、開教使宅と事務所を一体化し、何時でも来訪者を迎えることの出来る場所として再出発しました。

二〇〇三（平成十五）年十月十五日には、それまで熱心に聴聞していた、マーク・ヒールスミス（キャンベラ在住、皮膚科医師）、グレッグ・ヒースコート（ニューカッスル在住、大学図書館司書）の二人が得度を受式。その後、ヒールスミス師は忙しいスケジュールの合間を縫って開教事務所にて法話を続ける等の活動を続けています。また、ヒースコート師は勤務する大学のチャプレンとして活動を続けています。

二〇〇八（平成二十）年にローマ教皇ベネディクト十六世が来豪した際には、仏教代表として謁見しました。

二〇一〇（平成二十二）年十一月には、総局の出席のもと、親鸞聖人七百五十回大遠忌法要を勤修しました。

二〇一五（平成二十七）年七月には、開教事務所をそれまでの場所から五〇〇



屋外結婚式（1994年2月）



情報コーナー



ジョージ・ゲッテンビー師（最後列右）宅での入仏式（2009年3月15日）

メートルほど離れた現在の場所（Woodlands Rd Lindfield）に移転。より静かで広い礼拝空間で開教を継続しています。

今年（二〇一六年）ターンブル豪首相の主催する夕食会に招待される等、本願寺はこの国で認知されるようになっていきます。多文化主義を標榜するこの国で念



オーストラリア開教事務所での親鸞聖人750回大遠忌法要（2010年11月14日）

仏の教えが弘まる土台は十分にできており、その時機が到来した時には、オセアニア初の真宗寺院建立の夢を叶えるべくご縁の場を広げたく思っております。

（オーストラリア開教地事務所長 渡部重信）

